



土岐市制70周年記念事業
市民×企業・団体×行政

それぞれのStory



おどりのときsの場面

市内で事業をしている私は、知り合いを増やしたかったので、ワークシヨップに参加しました。子どもがいるため、全ての回には参加できませんでしたが、仲間のサポートがあり、最後まで楽しく参加できました。

私の選んだチームは、誰かの「やってみたい」を叶える「やってみようマルシェ」です。サポート役になることで、やりたいことがある人に、一

やってみたいの輪を
広げたい

子どもから大人まで、だれかの「やってみたい」をみんなが叶える「やってみようマルシェ」を開催しました。

やってみよう
マルシェ



横井 沙苗さん

人ではできない経験をしてほしいと思いました。

リーダーを中心に準備を進め、企画に参加してくれる人を募集したところ、ボードゲームや工作、体操など約10の体験ブースを用意することができました。私たちと一緒に土岐市で「やってみたい」と思う人たちがたくさんいるのだと感じ、うれしくなりました。

それでもイベント当日を迎えるまでは、お客さんに来てもらえるのか、盛り上がるのかと心配でしたが、会場には予想を超える人が訪れ、各ブースを楽しく体験してもらえました。私もブースを出し、幅広い世代の方と交流することができ、充実した時間を過ごしました。イベントが終了したときは、メンバーみんなが「良かったね」と心から喜び合いました。

私たちの活動は、これで終わりではありません、これからも土岐市で「やってみた

ストーリー1 のびたフェスタ



市民の皆さんが記念イベントを企画するワークシヨップから誕生した「市民活動チームNOVOTTA」。自ら企画・運営を手掛け、活動の集大成として「のびたフェスタ」を開催しました。

市民の
手作りミュージカル

歌が好き、踊りが好き、土岐市が大好き。そんなチームが土岐市のオリジナルミュージカル「ときのうつわ」を企画し、議場で公演を行いました。

仲間がいればいろんな
ことができる

以前、土岐市のことを考えるワークシヨップに参加した時、まちのことを考えている人がたくさんいることに驚き、人の温かさに触れました。今回のワークシヨップも、みんなが土岐市を思い、あれもいよいよね、これもいいよねと盛り上がる、そんな時間を過ごすことができました。

ワークシヨップからは、4



森川 倫江さん

つのチームが誕生しました。そのうち私は、自分では考えつかないミュージカルを選択しました。脚本の舞台は土岐市です。みんなで土岐市の魅力を語ったら、どんどん意見が出され、仲間と一緒に土岐市っていいなと感じることができました。右も左も分からず参加しましたが、仲間がいることで、一度も不安になりませんでした。

ミュージカルは、みんなで作り上げることを大切にし、会場にいる人全員が参加できるように演出を心掛けました。当日は、お客さんが楽しんでいる様子が伝わり、チームのみんなも盛り上がりました。



ミュージカルの場面

公演を終えて、自分一人ではできないことでも、仲間がいるといろんなことが可能になると実感しました。それは、普段の生活でも同じことです。仲間といろんなことができる土岐市、素敵ですね！

給食じかん

「土岐市の給食って、おいしいですよ」という現役高校生の声からスタートした「給食じかん」。おいしい給食で、土岐市への気持ちも、人もつながりました。

いいね！でつながる

楽しい時間

土岐市を盛り上げたいと思っている私は、迷わずワークシヨップに参加しました。ワークシヨップでは、70周年の



多治見 基美さん

テーマ「つながる」を実現しながら土岐市を盛り上げる方法を考えました。こうしたワークシヨップは初めてでしたが、どんな意見にもまず「いいね！」と認め合う、とても居心地が良い時間でした。

私たちのチームのテーマは「食」でつながる」です。意見を出し合う中、高校生メンバーの「土岐市の給食っておいしいですよ」という言葉がきっかけで、「給食」を取り上げることにしました。リーダーのもと、できる人ができることをするスタイルで、食材や器具の調達、衛生面の管理など、イベントの準備を進めました。おかげで最後まで楽しく参加することができました。

当日は多くの人が「給食」でつながり、笑顔がいつぱいでした。今回のイベントは、仲間がいたからできたのだと思います。多くの人とつながった「のびた」。これからも大切にしたい私の宝物です。

あかりのとき・
おどりのとき

陶製の灯ろうが土岐川の夕暮れを彩る「あかりのとき」。各町に受け継がれた盆踊りを、町の垣根を越えて踊る「おどりのとき」。みんなに親しまれたイベントをアレンジして、土岐市の過去、現在、未来をつなぎました。

移住した私から、土岐の魅力を伝えられ
たら

10年前の市制60周年事業で、子どもたちの未来を思いながら「未来レター」を書きました。それがきっかけで、今回のワークシヨップに参加しました。

私は、結婚を機にこの地に移住しました。ワークシヨップでは、メンバーが盆踊りや、あかりで彩られた土岐川の思い出などを楽しく、誇らしげに話す姿に、土岐市が好きなんだと感じ、この思い出を子どもたちに伝えられたら



黒田 文さん

とと思いました。

多くの人が楽しめるようにイベントに向けて話し合いを重ねました。準備もメンバーが得意分野を生かしながら、陶磁器工業協同組合や各町の踊りの保存会、市民の皆さんの協力を得て進めました。

迎えた当日は11月の夜。屋外でのイベントです。参加者の方楽しんでもらえるか心配でしたが、どちらも大成功でした。「おどりのとき」では、大きく広がった踊りの輪がつながった瞬間に『このイベントに関われて良かった』と土岐市に住んで良かった」と感動しました。

これからも、魅力がいっぱいの土岐市を、子どもたちに伝えていきたいなと思います。そして、このつながりがさらに広がり、もっと魅力あるまちになることを願っています。

ストーリー 3

職員プロジェクトチーム

所属、年齢を超えた職員による
チームが市制70周年記念事業の企
画・運営、市民団体のサポートを
行いました。



**わくわくワーク
ときめきランド**
市役所庁舎を舞台に、50のお仕
事体験ブースを開設。たくさん
の子どもたちが楽しみました。



市勢要覧の制作
若手職員が「市勢要覧」を制作。
土岐市の魅力を一冊に盛り込みま
した。



市勢要覧

市制70周年事業のプロジェクトチームのメンバー募集に「楽しんで！自分のやりたいことが実現できる」と思い、参加しました。みんなでよい良いものになりたいと思い、所属を越えたワークショップを行いました。市の魅力や課題を話し合い、子どもたちが市役所の仕事や市内の職業を知り、「土岐市っていいな」と感じてもらいたいという思いから、仕事体験イベント「わくわくワークときめきランド」を企画しました。

体験ブースのアイデアを各部署に募ったところ、全ての部署から提案があり、驚きとともに、うれしい気持ちになりました。市内事業所には、仕事でお世話になったところをはじめ、さまざまな事業所に声をかけました。とても快



土岐市制70周年記念事業プロジェクトチーム 加藤

諾していただき、感激しました。おかげで市と17の事業所で50のブースを用意することができました。
当日は、中学生や高校生のボランティアも加わり、多くの子どもたちが来場し、市役所が笑顔でいっぱいになりました。調整の難しさはありましたが、みんなが楽しみ、職員同士や市全体が繋がった瞬間に、大きな充実感を覚えました。これからも、この「つながり」を大切にしていきたいです。

70周年記念事業の市勢要覧を作ることが、私たちのミッションでした。堅いイメージの市勢要覧。どう表現すれば、記念事業のテーマ「つなぐ」を実現できるのか。意見を出し合った結果、「いま、土岐市で過ごしている人」に向けた発信が、市民・企業・行政をつなぐことになるのではと考えました。情報も子どもから大人まで幅広く掲載することになりました。



土岐市制70周年記念事業プロジェクトチーム
水野・伊藤・犬飼

ストーリー 2

企業・団体の皆さん

多くの企業や団体の皆さんが、70周年記念の物語を一緒に紡いでくれました。



**土岐市建設業組合の
皆さん**
土岐市のインフラを守る土岐市建設業組合。子ども向け職業体験イベント「わくわくワークときめきランド」や「陶元浅野線開通記念イベント」に協力してくださいました。



**土岐ロータリークラブの
皆さん**
地域社会の貢献と国際的な交流を目的に社会奉仕活動を行っている土岐ロータリークラブ。土岐市の魅力が詰まった「ふるさとカルタ」を制作し、カルタ大会を開催されました。

市内の建設事業者13社で組織する「土岐市建設業組合」に、市の方から、子ども向けイベントに参加してほしいと話がありました。
私たちの仕事は、道路などのインフラを守る仕事です。組合全社が仕事以外で一緒に活動することは初めてでしたが、子どもたちのために喜んで協力しようと思いました。
組合には、今後の土岐市の土木を担う者で構成する「土木委員会」があります。委員長の私は、組合員の交流を図るため、イベント内容を土木委員会で決めるよう提案しました。安全第一で楽しみながら土木の仕事を経験してもらえよう綿密な打合せを重ねました。

当日はいくつかの体験を用



土岐市建設業組合 副組合長
小嶋 啓元さん

意し、子どもたちの楽しむ姿を見ることができました。
昨年開通した「陶元浅野線」は、市内いくつかの事業所が携わる大事業でした。土岐市のインフラを守るため、情報を共有し、連携しないとうまくいきません。今回のイベントでは、組合員同士の自然な交流が生まれました。
今回のイベントをきっかけに、建設業界がさらに発展するため、土岐市のインフラを守り続ける思いを仲間とともに継承していきます。

土岐市への郷土愛を育むためにできることを、会員で話し合いました。遊びながら楽しく土岐市を知ることができ「ふるさとカルタ」の提案に、若いメンバーから「自分たちが一生懸命作ったものではない」と思いが伝わらない」という声が上がりました。
まず、カルタの内容を決めるため、土岐市の魅力を出し合いました。目標の50個の倍以上のアイデアが集まり、豊かな魅力を再確認しました。アイデアに読み言葉や写真、札の解説や地図を加え、土岐商業高校の生徒にデザインを依頼。内容の確認は現地に足を運びながら行いました。仕事と並行しての制作でしたが、仲間の熱意と多くの方々



土岐ロータリークラブ
岡部 高志さん

力で完成しました。
小学校を訪問し、完成したカルタを手渡すと、子どもたちが楽しそうに遊んでくれてホッとしました。
70周年事業として、カルタ大会も開催しました。市内の153人の子どもが参加し、一生懸命カルタに取り組む姿を見ていたら、うれしさがこみ上げました。
「土岐市を好き」と思ってくれる大人に育ってほしい、そんな願いを抱きながら、私たちの活動は続きます。